

報 告

- ◎ [「いばらき産業大県フェア2006」に出展](#)
- ◎ [「サマー・サイエンスキャンプ2006」開催される](#)
- ◎ [「夏休み昆虫教室」開催される](#)
- ◎ [総合科学技術会議 山本参事官 当所を視察](#)
- ◎ [「子ども樹木博士」開催される](#)

◎「いばらき産業大県フェア2006」に出展

茨城県が主催した「いばらき産業大県フェア2006」が、7月13、14日の両日、東京ビッグサイト（東京都有明）で開催されました。

茨城県に事業所を有する222の企業及び官庁、大学、独立行政法人、高等専門学校等から18団体の出展がありました。当所からは、農林害虫のトラップ（磯野東北支所グループ長）、樹幹動揺計（吉武企画調整部長）、地域材を利用した木製ガードレールの維持管理技術の開発（加藤構造利用研究領域主任研究員）、マツタケの個体識別方法（村田きのこ・微生物研究領域主任研究員）の4テーマについて出展しました。当所のブースへも多くの方々が訪れ、森林、環境、木材に対する高い関心を感じられました。当フェアの来訪者は2日間で14,000人余りに上りました。



森林総合研究所のブース

◎「サマー・サイエンスキャンプ2006」開催される

8月2日（水）から4日（金）までの3日間、森林総合研究所を会場にサマー・サイエンスキャンプ2006が行われました。サイエンスキャンプとは、（独）科学技術振興機構が主催、（財）日本科学技術振興財団が実施運営し、国立試験研究機関や独立行政法人などが受け入れ機関となり、高校生または高等専門学校生を対象に、受け入れ機関の特徴を生かした実習や実験をとおして、科学技術や自然に対する興味や参加者同士の交流を深めることを目的とした科学技術体験宿泊プログラムです。森林総合研究所での開催は、今回で9回目になります。

今年のサイエンスキャンプには、北は宮城県、南は沖縄県から計8名の高校生が参加し、「森林土壌で温室効果ガスを調べてみよう」コース、「野生動物の年齢を調べてみよう」コースの2コースに分かれて、研究者と一緒に実験や観察を行いました。



シカの歯にできる年輪を数えたり、シカのおごの大きさから年齢を考察しました



森林や畑地の土壌から出るガスを集めて、ガスクロマトグラフ装置を使って成分を調べました



実験結果などコース別にポスター発表

◎「夏休み昆虫教室」開催される

8月5日（土）、「夏休み昆虫教室」が開催されました。自然をより身近なものとしてとらえ、子供たちに昆虫に慣れ親しんでもらうための夏休みの企画で、本年度で5回目の開催になります。午前・午後の部を行い、付き添いの方を含めて64名の参加がありました。

まず、講師から昆虫の取り方や使用する道具について説明が行われ、その後、カブトムシとセミの標本作りに挑戦しました。また、土壌動物写真家の皆越ようせい氏から土壌動物の話がありました。



高いところにいる虫を捕獲するのに使う虫取り網



カブトムシの足の形を整えて虫ピンで固定します

◎総合科学技術会議 山本参事官 当所を視察

8月18日（金）、内閣府山本光昭参事官、小田祥二上席政策調査官が森林総合研究所を視察されました。生物多様性解析棟において研究所の概要説明の後、福山研究コーディネータが、生物多様性保全研究について説明しました。

その後、生物工学研究棟へ移動し、田崎研究コーディネータが、樹木の遺伝子組換え研究について説明しました。



施設視察（生物多様性解析棟）

◎「子ども樹木博士」開催される

8月19日（土）、所内樹木園を会場に「子ども樹木博士」が開催されました。これは、子供たちに森林をとおして環境や自然科学などについて興味を持ってもらうことを目的とし、樹木の名前をどれだけ正しく答えられたかに応じて段級を認定するもので、今年で7回目の開催になります。今回は、午前・午後の部を行い、付き添いの方を含め計27名の参加がありました。

まず、講師と一緒に樹木園を歩きながら、出題される30種の樹木の特徴を聞いたり、葉や花などを観察した後、樹木の名前当てに挑戦し、正解数に応じた段級を認定した子ども樹木博士認定証が授与されました。



講師から樹木の特徴について説明を聞きながら観察します



認定試験の様子